

No. 280

全仏

7/57

お盆の行事

夏期の子定を見るとお盆の行事で、毎日がうめられている。お盆会、施餓鬼会をはじめ、精霊流し、盆踊り、幼児の一泊研修から青少年の緑陰会、各種集会等、寺内あ

げの行事が続いている。国鉄なども夏ダイヤを特別に組み、墓参に帰る帰省客の便を計る様に、日頃、信仰になじまない人々も、お盆の季節になると、先人を偲び、感謝し信心家となる様である。全国寺院が七、八月を勢一ぱいお盆行事の消化に汗してはいるが、

かつて、境内において行じられた盆踊りが校庭や公園に移り、今や団地やデパートの駐車場で行われるに従い、その本旨や目的がうすれていく事のない様に留意して、此二ヶ月全力投入しなくては、ならないと考えている。



輪王寺・相輪櫓 (栃木県日光市)

全日本仏教会

第29回

全日本仏教徒会議

テーマ中心に活発な討議

仏教と倫理

われらいかに 生くべきか

第二十九回全日本仏教徒会議北海道大会は、去る六月二十四日、さわやかな初夏の風が吹きぬげる道都札幌・西本願寺別院を会場に開催された。今年度は「仏教と倫理―われらいかに生くべきか―」をテーマに、全日本仏教会と北海道仏教会連盟の主催で、各地からの参加者が、二つの部会で熱心な議論を進めた。また昼食時には、宗派代表者懇談会が開かれるなど、意義深い大会だった。



西本願寺札幌別院で開かれた全日本仏教徒会議

開会式典

定刻の九時半、司会の北海道仏・柿本顕導師が開会を宣言。大会副会長・竹中徳成札幌別院輪番の導師で法要が取り行われ、大会総裁・金子日威全仏会長式辞、本多賢純全仏理事長挨拶、大会長・松井義海北海道仏教会連盟会長挨拶とつづいた。来賓挨拶に移り、自民党文教局次長



第一部会

狩野明男氏、韓国仏教宗団協議会代表のハン・チンキョン氏、さらに北海道知事、札幌市長からも、お祝の言葉が寄せられ開会式を終了した。

基調講演

ひきつづいて、同じ別院本堂を会場に、北大文学部長・藤田宏達師が「仏教と倫理観」と題して基調講演を行った。藤田師は、特に戒律について、仏教には様々な思想があることを述べた。

「戒定慧の三学からもわかるように、仏教は徹底した倫理の教えといえる。それは五戒に代表される戒律を、倫理の根本規範としている。しかし同じ仏教でも、戒律に対しては様々な考えがある。戒を積極的に守るという立場もあり、宗派によっては、信仰によって自ずから戒が具わってくるとする思想もあり、これは無戒の戒といえよう」

総会

午前の総会は、田代組織部長の司会で十一時半開会。近藤隆敬大会副幹事長開会の辞、小野島事務総長を仮議長として議長団の選出にすすみ、議長に貝山宣泰師（神奈川仏）、副議長に江連俊則（埼玉県仏）、禿一行（北海道仏）、飯尾諒教（北海道仏）の三師が選出され、議長団席に着いて議事を開始した。

まず那須組織局長から大会幹事の紹介、議事運営規則などについて説明が行われ、さらに白川謙敬議事運営委員長から、意見発題の一部変更が報告された。そして、小野島事務総長の全仏事務報告があつて、総会を終えた。

二つの部会で討議

午後一時からの部会は、会場を一階の大ホールと大広間に移し、それぞれ上程された意見発題を中心に、参加者の熱のこもった討議が展開された。

総 会

両部会終了後、三時から二階の本堂で午後の総会が始まった。豊田総務局長開会の辞、貝山議長挨拶につづいて議事に入る。まず二つの部会報告が、若林隆光（第一部会）、塩入亮達（第二部会）の両部長からなされた後、宣言決議文が、島田喜久子宣言決議文起草委員から発表された。そして議長団退席、井上日宏大会副幹事長閉会の辞で、総会は終了した。

閉 会 式

ひきつづいて、田代組織部長の司会で閉会式に移り、藤川寛房大会副会長が挨拶



第二部会

挨拶、松井大会長の万歳三唱、那須組織局長の閉会の辞で、すべての日程を終了した。

第一部会

第一部会は、若林隆光部会長、西島義彦、野村定玄副部会長によってすすめられ、最初に近代仏教研究会から出された「核兵器完全廃絶、軍備廃絶を実現するための、仏教徒の決議を発表しよう」という意見発題を討議。会場から、核の平和利用について賛否両論が述べられるなど、活発な話し合いが進められた後、助言者の井上師が、「殺すなかれ、という仏教の倫理から、核兵器廃絶には当然賛成だが、核の平和利用についてはもっと深く考えるべきだろう。発題の主旨は、宣言文にもりこみたい」という助言を行なった。

つづいて、全日本仏教青年会副理事長の玉川覚祥師が、「カンボジア難民救援活動について並びに今後の救援活動について」をテーマに意見発題。玉川師は、これまでに四千二百万円をカンボジアに届けたという経過を報告。今後は、カンボジアだけでなくラオスの難民も救援したい、また、仏教徒全体の救援活動の協議会を創りたいと述べた。これに対し、助言者の高山有進師からは、真言宗豊山派の救援活動の実情が報告された。（助言者）井上日宏、高山有進

第二部会

塩入亮達部会長、村松賢英・高橋智星副部会長によって進められた第二部会は、まず「長岡市檀信徒会活動について」同部会長の池田忠蔵氏から意見発題。昭和四十五年発足した檀信徒会に、花まつりなど市民多数が参加して活動している実情が述べられた。助言者の山口貴美子さんからは、御詠歌などが、婦人を対象にした教化により方法だ、という助言が行われた。

つづいて「大都市に於ける実践活動の一例」という意見発題が、山田一真師か

宗派代表者懇談会

午前の総会終了後、十二時から昼食の時間を兼ねて、宗派代表者懇談会が開催された。

懇談会には中村財務部長の司会で、金子全仏会長、常磐井堯棋・藤前東時の両副会長をはじめ、各加盟宗派から管長・宗務総長二〇人が出席（代理を含む）、なかなか話し合いが行われた。

懇談はまず、全日本仏教徒会議のあり方について、これまでのように毎年大会を開くのではなく、隔年にしたらどうか、また、県仏が未加盟の県に対しては、有力な市仏に事務局が積極的に働きかけを行ったらどうか、などの意見が活発に述べられた。



懇談される各代表

全日本仏教徒代表者会議開く

第二十九回全日本仏教徒会議前日の六月二十三日、午後四時から札幌市のパークホテルを会場に、都道府県仏代表者会議が開かれた。

会議には、十五都道府県仏の代表者が出席、小野島事務総長開会の辞、竹中徳成北海道仏副会長長の三掃依文唱和、松井義海北海道仏会長、本多賢純全仏理事長の挨拶に続いて、司会の田代組織部長から、出席者一人ひとりが紹介された。その後、座長に地元、北海道仏教連盟から藤川寛辰副会長、副座長に神奈川仏教会の貝山宣泰師を選んで議事に入った。

議題③「ルンビニーの件」

議題④「税務問題」

それぞれの議題について、担当の局長部長から説明が行われた後、各県の出席者から活発な意見が出された。特に「税務問題」については、税務委員会の神野副委員長から、同委員会の活動内容が報告され、各県仏からもそれぞれの地域での、寺院に対する税務調査の実態などが次々に述べられ、この問題に対する出席者の関心の深さをうかがわせた。なお、引き続き午後六時から、同ホテルで懇親会が開催された。

出席者（順不同・敬称略）

北海道・松井義海、竹中徳成、藤川寛房、兵庫・三浦成雄、円成淳龍、青森・上田

第29回全日本仏教徒会議 大会宣言

三宝照護のもと、新緑の北都札幌市において、第二十九回全日本仏教徒会議北海道大会を開き、全国より参集した日本仏教徒代表は輝かしき未来に向かって「仏教と倫理―われらいかに生くべきか―」を主題として、真剣に討議した結果、われわれは自我を棄てて

止悪行善の基本的な生活倫理と和合社会を建設すべき自我のもと、世界平和と仏教理念具現のため、つぎのことを積極的に実践することを確認した。
一、世界の平和と福祉を願い、自然環境の破壊と人類の滅亡に直結する核兵器の廃絶に努力する。

頼石、吉川正英、山形・板垣隆寛、滋賀・木辺宣慈、三重・高島広勝、鷹阪秀享、静岡・遠山弘文、新村正幸、茨城・大越孝仁、中村純崇、徳島・秩父真応、秩父

全仏の理事会

六議案、五報告事項を審議

全日本仏教会の理事会は、去る五月二十六日午後一時から、東京グランドホテルで開催された。

理事会は小野島事務総長、本多理事長の挨拶で始まり、議長に本多理事長、また議事録署名委員に、久保聖太清、桑原眉尊の両師を選んで議事に入った。

議案第一号「昭和五十六年度事業報告の承認を求める件」
担当局長、部長から報告、原案通り承認。

議案第二号「昭和五十六年度歳入歳出合う立場から、難民など救援の活動に参加する」

三、仏教の根本理念に基づき、全仏教徒の組織を一層拡充し、教化活動を推進する。

四、各国仏教徒間の問題解決のため、国際的交流を図る。

右宣言する。
昭和五十七年六月二十四日
第二十九回全日本仏教徒会議

美都子、埼玉・山本道隆、江連俊則、神奈川・貝山宣泰、小崎龍雄、東京・岩崎宗秀、白川謙敬、群馬・竹市文成、千葉・長瀬留理、長瀬文江、香川・石井有龍

決算の承認を求める件」

担当局長、部長から報告、監事から監査報告の後、原案通り承認。

議案第三号「ルンビニー復興日本仏教徒委員会規約の承認を求める件」
担当局長、部長から説明、慎重審議の結果、規約案を一部修正の上、承認。

議案第四号「過年度未納負担金の取り扱いについて承認を求める件」
担当局長、部長から説明、原案通り承認。

議案第五号「世界連邦日本仏教徒協議会の加盟の承認を求める件」
本会加盟の必然性の是非を検討、結論は保留となった。

議案第六号「任期満了に伴う専門委員の改選について承認を求める件」
担当局長から説明、原案通り承認。

報告事項①「第二十九回全日本仏教徒会議北海道大会について」

報告事項②「第十四回世界仏教徒会議について」

報告事項③「タイ・カンボジア難民救済金伝達について」

報告事項④「同和委員会活動報告」

報告事項⑤「税務委員会活動報告」

暑中御見舞い、申し上げます

曹洞宗宗務庁

管 長 乙 川 瑾 映
 宗務総長 伊 藤 治 雄
 参 議 志 保 見 道 雲
 同 余 語 翠 巖
 教 学 部 長 永 井 孝 道
 教 化 部 長 檜 山 大 典
 総 務 部 長 桑 原 眉 尊
 伝 道 部 長 山 本 義 童
 出 版 部 長 安 本 利 正
 人 事 部 長 細 川 祐 葆
 財 政 部 長 山 崎 正 道

東京都港区芝一―五―二
 〒105 ○三(四五四)五四一一

浄土真宗本願寺派

門 主 大 谷 光 真
 総 長 豊 原 大 潤
 総 務 川 野 三 暁
 同 寺 田 義 淳
 同 荻 諱 忍
 同 松 本 昇 典
 同 藤 岡 義 昭

京都市下京区堀川通花屋町下ル
 本願寺門前町
 〒600 ○七五(三七)五一八一

真宗大谷派

宗務総長 五 辻 実 誠

京都市下京区烏丸通り七条上ル
 常葉町七五四
 〒600 ○七五(三七)九一八一

浄土宗宗務庁

浄土門主 藤 井 實 應
 宗務総長 武 田 喬 彦

宗 務 庁
 京都市東山区林下町四〇〇
 〒605 ○七五(五二五)二二〇〇
 東京事務所
 東京都港区芝公園四―七―四
 〒105 ○三(四三六)三三三五一

総本山 金剛峯寺
 高野山真言宗宗務所
 御遠忌大法会事務局

総 管 座 長 主 裁 森 寛 紹
 執行 長 阿 部 野 竜 正
 宗務 総 長 監 阿 部 野 竜 正

和歌山県伊都郡高野町高野山
 〒648-02 ○七三(六五)二〇一一

暑中御見舞い、申し上げます

真言宗智山派宗務所
総本山智積院法務所

| | | | | | | | | | |
|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|---------|----------|
| 化管 主長 | 宗務 寺務 | 教学 部長 | 財務 部長 | 総務 部長 | 教化 部長 | 法務 部長 | 出張 所長 | 御遠 忌 | 勸募 部長 |
| 上野 頼 榮 | 小澤 照 禧 | 高野 一 能 | 山内 隆 敞 | 堀井 隆 俊 | 吉野 快 弘 | 佐藤 良 盛 | 小峰 一 允 | 岡本 實 良 | |

〒605 京都市東山区七条東瓦町九六四
〇七五(五四一)五三六一

日蓮宗宗務院

| | | |
|--------|----------|----------|
| 管 長 | 宗務 部長 | 内局 員一 |
| 金子 日 威 | 塩田 義 朗 | 同 |

〒146 東京都大田区池上一三三十一一五
(〇三)七五二一七八(代)

総本山 仁和寺
真言宗御室派宗務所

| | | | | | | | | | |
|--------|--------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|----------|
| 管 跡 | 管 長 | 宗務 部長 | 執行 部長 | 執行 部長 | 執行 部長 | 執行 部長 | 執行 部長 | 執行 部長 | 執行 部長 |
| 立部 瑞 祐 | 石井 玄 妙 | 東 快 雄 | 堀 智 範 | 手 嶋 千 俊 | | | | | |

〒616 京都市右京区御室大内三三三
〇七五(四六一)二一五五

和宗総本山四天王寺

管 長 出口 常 順

〒543 大阪市天王寺区四天王寺一
一一一八
〇六(七七二)〇〇六六

念法真教教団
総本山金剛寺

燈 主 小倉 靈 現

〒538 大阪市鶴見区緑三一四一二二
〇六(九一一)二二〇一

旧嵯峨御所

大本山 大覚寺
嵯峨御流華道総司所

門跡代務者 味岡 良 戒

〒616 京都市右京区嵯峨大沢町四
〇七五(八七一)〇〇七一

時宗宗務所

| | | | |
|----------|----------|----------|----------|
| 宗務 部長 | 庶務 部長 | 教学 部長 | 財務 部長 |
| 辻 円 乘 | 保 科 忍 道 | 林 昭 善 | 木 本 真 学 |

〒251 神奈川県藤沢市西富一八八一
〇四六六(三三)七二七六

暑中御見舞い、申し上げます

真言宗豊山派宗務所

管 長 築山定誉

宗務総長 久保楚太清

総務部長 高山宥進

教化部長 吉田俊誉

財務部長 鳥居慎誉

教務部長 鴨志田秀純

弘法大師千五百五十年

御遠忌記念事業委員会

事務局長 飯塚正雄

東京都文京区大塚五―四〇―一八
〒112 〇三(九四五)〇六三九

真言宗東寺派宗務所

管 長 草野栄龍

宗務長 吉川律城

教学部長 大野大雅

財務部長 真田快尊

庶務部長 北川亮暁

審議会会長 井上信祐

京都市右京区西京極葛野町四
〒615 〇七五(三一一)二〇一七

真言宗国分寺派 大本山国分寺

管 長 西口公教
大僧正 (大阪市仏教会長)

宗務総長 足立有教
(宝塚市市会議員)

大阪市淀川区国分寺一―六一―一八
〒531 〇六(三五二)五六三七代

新義真言宗

総本山
根来寺座主
管 長 加藤太信

宗務総長 広沢純孝

文京区湯島四―六一―一二
湯島ハイタウンB―1211
新義真言宗宗務所東京出張所
〒113 〇三(八一四)三四六四

臨濟宗東福寺派

管 長 岡田照道

京都市東山区本町一五
〒605 〇七五(五六一)〇〇八七

黄檗宗務本院

宇治市五ヶ庄三番割三四
〒611 〇七七(四三三)三九〇〇

聖観音宗 金龍山浅草寺

宗務総長 大森亮雅

東京都台東区浅草二―三一―一
〒111 〇三(八四二)〇一八一

暑中御見舞い、申し上げます

兵庫県仏教会

会 長 小西 日 静
副 会 長 大谷 昭 世
" 志 水 紫 朗
常任理事 奥 嶋 顕 彰
" 波 多 正 響
" 井 上 紀 生
" 赤 松 普 現
" 山 本 真 瑞
" 本 城 義 人
" 辛 塚 則 乘
" 長 谷 川 元 教
" 林 寛
監 事 小 林 景 輝
" 当 津 道 鷹
事務局 長 円 成 淳 龍

神戸市兵庫区松本通三十一一四〇
法華寺内
〒652 〇七八(五二二)一六六八

東京都仏教連合会

会 長 小 峰 順 誉
理 事 長 岩 崎 宗 秀
常務理事 一 同
監 事 一 同
事務局 長 白 川 謙 敬

東京都世田谷区松原五十四三三〇
正法寺内
〒156 〇三(三三二)〇二〇五

財団法人 埼玉県佛教会

会 長 山 本 道 隆
副 会 長 江 連 俊 則
" 河 野 亮 永
専務理事 片 山 秀 亮

浦和市高砂四一三三一八
佛会館
〒336 〇四八八(六一二)一三三八

茨城県仏教会

会 長 大 越 孝 仁
事務局 長 小 原 泰 寿
顧 問 ・ 理 事 一 同
評議員・事務局員 一 同

茨城県多賀郡十王町友部一九九〇
〒319-13 〇一九三(三三二)二〇五一
事務局 水戸市八幡町一一一六九
祇園寺内
〒310 〇二九二(二二一)五二二九

千葉県仏教会

会 長 渡 部 日 皓
理 事 長 土 持 良 栄

千葉県茂原市下太田一五六五
萬光寺内
〒299-41 〇四七五(三四三)三五八二

孝道教団

統 理 岡 野 正 貫
副 統 理 岡 野 鄰 子

横浜市神奈川区鳥越三八
〒221 〇四五(四三二)一一二〇一

近代仏教研究会

理 事 長 壬 生 照 順
事務局 長 小 室 裕 充

東京都台東区元浅草一一一七一一
華藏院内
〒111 〇三(八四四)三六四八

福岡県仏教連合会

福岡市中央区長浜二丁五五〇八
港ビル内
〒810 〇九二(七五一)二〇一四

暑中御見舞い、申し上げます

財団法人 仏教伝道協会

会長 沼田 恵範
 理事長 宮本 正尊
 理事 中村 元
 雲 藤 義道
 松 原 泰道
 芝 原 郷音
 沼 田 恵範
 監 事 芝 田 徹男
 坂 東 環城
 三 原 信一
 東京都港区芝四―三―一四
 〒108 〇三(四五五)五八五一

愛知県仏教会

会長 木村 正範
 副会長 宇佐美 諦練
 瀬 辺 淳信
 松 林 法泉
 名古屋市東区東桜二―一六―五一
 〒461 〇五二(九三二)八一二四
 梅屋寺内

社団法人 全日本仏教婦人連盟

理事長 山本 杉
 事務局 一同
 東京都豊島区北大塚二―一―一
 〒170 〇三(九一〇)一二八九
 大塚プラザビル七F

財団法人 国際仏教興隆協会

名誉総裁 金子 日威
 理事長 巖谷 勝雄
 役員 一同
 東京都目黒区中目黒五―二四―
 五三三 祐天寺内
 〒153 〇三(七一一)七六〇八

財団法人 仏教振興財団

理事長 竹村 吉右衛門
 事務局長 長瀬 貫公
 主 事 本 間 皓 司
 編集担当 植 松 威
 事務所
 東京都台東区浅草二―三―一
 浅草寺内
 編集室
 東京都台東区元浅草四―六―一六
 善慶寺内
 〒111 〇三(八四一)七〇三七

(財)全日本仏教会

お寺に仏旗をかがげよう

| | | | |
|-----|---------|------|----------|
| 大たて | 140C-よこ | 210C | ¥13,000円 |
| 中 | 90C- | 135C | ¥5,000円 |
| 小 | 70C- | 100C | ¥3,000円 |
| 手旗 | 35C- | 50C | ¥1,500円 |

別染製 堅牢 (全日本仏教会制定意匠登録済)
 各地区仏教会でまとめて御注文の際は
 価格の御相談に応じます。

日の丸・仏旗バッチ

¥五〇〇円

法輪バッチ

径1cm、ネジ式
 ¥一、〇〇〇円

全仏輪袈裟

こげ茶、法輪マーク付き
 ¥一、五〇〇円

税務アンケート 中間報告

法人収入と個人収入は明確に

納金に課税されるのか。
10、過去帳の提示。
12、帳簿の不備、給与レベルの低さを追求された。

昨年十一月の法人税基本通達等の一部改正以来、各地において税務当局の調査指導が極めて強く実施されております。全仏税務委員会としても、この基本通達の一部改正について、宗教法人の特異性に留意されるよう国税当局に要望すると同時に、各地における税務当局の一斉調査についても、宗教法人法の精神を逸脱させぬよう慎重な行政と措置を強く要望しました。

また、今後、国税当局との折衝にあたって、より具体的な事例等をもって話し合いをすすめるため、情報収集としてアンケートを各都道府県仏に依頼し、これを取りまとめ対処するつもりでいます。そのアンケート（中間報告）より、特に法意を要する点などについて、各地の調査報告をいたします。

うにとの指導があつた。

◎どのような調査・指導でしたか

- 1、事業報告、決算書を提出（特に住職の源泉徴収について収入調査書の提出
- 2、住職、寺族の給与が妥当であるかどうか、寺の収入を個人収入に入れていないかの調査を厳しくうけた。
- 3、調査表記入の指導をしたので会合をもってほしいとの要請があつた。
- 4、財務帳簿の提出を求められた。
- 5、住職の収支状況の説明会（現物は金に換算すること、光熱費水道料等は、個人と寺と等分することを指摘された）。
- 6、法人から受ける給与は、諸経費を差引き、乙欄を適用し、年二回にわけて源泉徴収分を納付すること（羽生市）。
- 7、突然、電話連絡で、立入り調査。
- 8、寺院の収支決算にともなう、檀信徒戸数、伴僧依頼寺院名や、住職の年間収入等の厳しい調査をうけた。
- 9、出納簿調査指導、指定石材店よりの営繕損料金に対し課税された。
- 10、法人経理を明瞭にし、個人支出と混同しないこと。給与は社会通念的（常識的）に生計を営む額であること。
- 11、源泉徴収義務者を、仏教団長名にしてあつたのを、各寺院代表者とするよ

- 1、税務講習会を開き研修した。
- 2、個人の預金に至るまで全部見せた。
- 3、過去三年間の財務帳簿提出。
- 4、当局のなすがままに過去帳、檀家数等の基礎調査をされた。
- 5、公認会計士に委任（石材店営繕損料金は課税）した。
- 6、講習会開催。指導・調査を受けた寺院より内容等の情報集めをした。

- 1、薄外収入に対し厳しく追求。
- 2、葬儀の収入、石屋の志の記入。
- 3、子弟の学資を宗教法人の経費でまかなっていたが、代表役員給与とみられた。財務帳簿を備付けていない寺院で、税務調査に当り税務署の資料に基づき布施収入を算出された。布施収入を減額して記帳し、これが発覚して減額分を代表役員給与とみられた。宗教法人の積立金を寺族名義で預金していた場合、法人名義に預け替える指示され、預け替え後、預金証書、銀行の証明書等の提出を求められた。兼務寺から得る収入を追求された。

◎問題となつた点は……

◎その時の問題点は……

以上のように、源泉徴収に関しての調査・指導が各地で行なわれ、帳簿不備、低給与等を厳しく追求されています。充分なる指示徹底をお願い致します。特に、①財務帳簿の備付け。②住職の給与は常識的に生計を営む額。③法人収入と個人収入は明確に。（各項の番号数字の、同番号は関連の）（あるものです）。

昭和57年7月1日

三つの委員会ひらく

第八回税務委員会

実態調査など議題に

第八回税務委員会（鈴木靈孝委員長）は、六月八日午後二時より、明照会館会議室で開かれ、豊田総務局長の挨拶のあと、神野真一副委員長を議長に議事に入った。

（一）副委員長選出の件

河野副委員長辞任に伴い、新しく、中野教広委員（神奈川県）を選出した。

（二）県仏税務実態調査の件

各県仏からのアンケートを種々討議し、とにか、財務帳簿を備付けること、住職の給与を常識的にすることなどの徹底を指示すべきであるとの結論が出され、今後、機関紙等を通じて報告することになった。

初の国際専門委員会

WFB大会など討議

昭和五十七年度の第一回国際専門委員会は、六月十七日午後五時から、機械振興会館「パークヒル」で開催された。

北山国際文化局長挨拶、出席各委員の自己紹介について、正副委員長の選出へ移った。その結果、委員長に近藤隆敬師、副委員長に安本利正、西村輝成、近田昭夫の各師が選ばれた。議事に入り、事務局から本年度国際部事業計画やルン

ビニー復興計画などについての説明があり、各委員からは種々の意見が述べられた。特に、日本へ予告なしに訪ねてくる外国人僧侶に対する取り扱いや、第十四回WFB大会については、活発な討議が行われた。

第一回文化専門委員会

四議案につき討議

第一回文化専門委員会は、六月十七日午後二時から明照会館会議室で開催された。

小野島事務総長、北山国際文化局長の挨拶につづいて、出席各委員が自己紹介、その後正副委員長の選出へと移った。その結果、委員長に若林隆光師、副委員長に塩入亮達、宝田正道の両師が選ばれ、議事を開始。

①機関誌「全仏」について

②第十五回日本仏教文化会議について

③仏教文化財の保護について

④花まつりポスターについて

各議題について、活発な討議が続いたが、特に全仏誌の編集は専門委員の中から相談員を選んで協力いただくこと、花まつりポスターのデザインは、現在のものが好評なので、本年度も継続することなどが決められた。

スリランカで仏教研究者の世界会議

全仏からも出席

世界仏教徒のリーダーと、仏教研究者の会議が、去る六月一日から五日まで、スリランカのコロomboで開かれた。

この会議は、スリランカ政府とスリランカ国仏教会の共催で、「仏教の生存と発展」をメインテーマに掲げ、世界十七カ国・三十三団体から六百六十二人の代表が出席した。日本からは、全仏国際専門委員で、熱海市の誓欣院住職長田順海師、大谷大学教授長崎法潤師、全仏事務局から、国際部の小峰主事が参加した。

仏英研のセミナー

来月末箱根で開く

仏教英語研究会の第四回サマーセミナーが、八月二十七日から三十日までの四日間、神奈川県の大雄山根根別院（曹洞宗）を会場に開催される。この合宿は、仏教を英語を通じて理解することを目的

とされており、英語、仏教に興味があれば誰でも参加できる。希望者は、新宿区西新宿三一五―三一八〇二、山田方、仏教英語研究会（〇三―三四二一六六〇五）まで。締切は八月二十日。

事務局録事（六月）

- 五日 妙心寺派管長晋山式参列
- 八日 税務委員会
- 九日 同和委員会
- 十一日 局内会議
- 十五日 全仏大会幹事会
- 十七日 文化庁宗務課と懇談会
- 十九日 国際専門委員会
- 二十一日 日宗連理事會
- 二十二日 ルンビニー委員会
- 二十三日 法律相談室
- 二十四日 都道府県仏代表者会議
- 二十九日 第二十九回全日本仏教徒会議
- 三十日 局内会議
- 文化会議運営委員会

寺院用具

浅草通り五鳳会加盟店

株式会社 決田商店

東京都台東区寿2-10-9 (地下鉄田原町駅前)

電話 代表 (841) 4965

昭和五十七年 七月一日発行
七月号 第二八〇号

発行人 小野島 元雄
編集人 北山 宏明

発行所 財団法人 全日本仏教会

東京都港区芝公園四―七―一四
電話〇三(四三七)九二七五